

# 1964年新潟地震と福島県

## —福島民報・福島民友新聞の記事からの考察—\*

秋田大学情報データ科学部 水田 敏彦  
北海道大学 鏡味 洋史

### 1. はじめに

1964年新潟地震は新潟県北部沖で発生した M=7.5 の地震で被害は新潟県のみならず日本海沿岸の山形県・秋田県、内陸の福島県にも被害が及んでいる。筆者らはこの点に着目し新潟県以外の被害について文献調査を進め<sup>1), 2)</sup>、福島県については被害の大きかった会津地方について議論している<sup>3)</sup>。また被害の大きかった塩川町(現喜多方市)で30周年を記念して刊行された体験談集<sup>4)</sup>から被害及び影響について読取っている<sup>5)</sup>。本論では福島県全県について地元の新聞記事を読み直し、福島県に及ぼした影響を考察してみる。

### 2. 福島県の地方新聞

福島県の全県をカバーする地方新聞には福島民報と福島民友新聞がある。福島県新聞史<sup>6)</sup>を参照し両新聞の系譜をたどる。福島民報は1892年の創刊で現在に至る。福島民友新聞は1895年創刊の福島実業新聞を母体に1927年福島民友新聞に改題、1941年戦時統制により廃刊になる。戦後1946年に復刊し現在に至っている。本社は共に福島市にあり全県をカバーしている。

### 3. 会津地方の被害

会津地方の被害について、筆者らは各種被害報告書、福島民報および福島民友新聞の記事を参照しまとめている<sup>3)</sup>。要点を記すと、住家の全壊は喜多方市、塩川町、会津坂下町、湯川村、三島町で見られ、被害のほとんどは会津盆地中西部であり、特に日橋川沿いに集中している。会津地方の17名の人的被害の発生状況が確認でき、昼間の地震の特徴として野外での落下物、落石、塀や灯籠の倒壊および家具の転倒による負傷が報じられている。

### 4. 福島県全域の市町村別の被害

本論では範囲を福島県全県に広げて、福島民報と福島民友新聞の地震に関する記事を読み直した。当時の市町村別に一覧表にして表1に示す。会津以外での被害は、中通りの福島市、信夫郡信夫村、伊達郡桑折町、同伊達町、浜通りの平市で軽微な被害が報告されている。

人的被害については福島市、伊達郡伊達町で避難中の転倒等が報じられている。

---

\*The 1964 Niigata Earthquake and Fukushima Prefecture  
—A consideration of articles from the Fukushima Minpo and Fukushima Minyu Shimbun— by Toshihiko Mizuta and Hiroshi Kagami

表1 1964年新潟地震による福島県内市町村別被害記事の一覧

凡例：新聞【日付，朝/夕，紙面】，[地名，施設名等]記事，人的被害 年令性別				
郡	市町村名	福島民報	福島民友新聞	現市町村
信夫郡	福島市	【16夕1】[市内] タクシー出庫 昼食客 [本町] セトモノ店被害 10万円 [渡利 舟場] ボヤ油鍋出火鎮火 [早瀬町] 高圧 線破断 [学校被害] 15-6校で壁崩薬品漏 【17朝2】[学校被害] [商業高] 2教室 傾斜 [工業高] 壁崩水道管破裂 [女子高] 調理室天井下垂 [北信中] 6教室壁落 [第 一小] 講堂 [第二小] 講堂被害 5 [第四 小] 旧校舎欄干 [杉妻小] 体育館 [花園 町] 鹵検定所煙突折 [本町] セトモノ店， 10万円被害 【17朝7】[市内] 市役所避難，転倒軽 傷 3	【16夕1】[市内] ボヤ 煙突折損 ビル 避難下水溝溢 電線スパーク 鹵検定所 煙突折損 [霜降] 磐梯吾妻幼少イイ落石 3 [森合] ろう学校避難 [清明町] 幼稚園プール水 溢 [福島駅] つばさ立往生 混雑状況 [霞 町] 解体中旧福島授産所倒潰	福島市
	信夫村	【17朝7】[大森北内町] 土蔵崩		
伊達郡	桑折町	【17朝7】[桑折公民館] 屋根瓦壁崩 [加 美町] 洋品店石塀崩 電話ボックス天井 破損土 [桑高] 石塀崩		桑折町
	伊達町	【17朝7】[沓形] 67F煙突ケガ10日	【16夕1】ケガ1	
安積郡	郡山市	【16夕1】[市内] ビル避難 [映画館] 関東大震災を上演中		郡山市
南会津郡	下郷町	【16夕1】[中山小沼沼崎] 土砂崩通行 止 [湯ノ上中山] 土砂崩 [倉村] 地割 【7朝3】[沼尾地区] 42M 落石重傷 42M 顔面骨折	【16夕1】[湯ノ上中山] 土砂崩 【17朝7】[枝松南居平] 42M 落石重傷 3月 [大沢] 石顔面打撲 3週	下郷町
	田島町	【16夕1】[田島病院] ガラス戸破損		南会津町
	館岩村	【17朝7】[館岩小 上郷小] 新潟に修学 旅行亀田に宿泊	【16夕1】[館岩小 上郷小修学旅行] 新 潟 12:57 着，安否確認 【17夕3】修学旅行生無事	
	只見町	【17朝2】[福沢] 只見線鉄橋桁ズレ [只 見高] 防火壁傾斜		只見町
北会津郡	会津若松市	【16夕1】[市内] 棚落下物 屋外避難 [馬 場一之堅町] 図書館壁落瓦ズレ [堅三日 町内] 電線出火 【17朝2】[若松女子高] 体育館ガラス 壁破損 【17朝7】[材木町] 30F 瓦落下重傷 1 月	【17朝7】[市内] 住宅 2 非住家 21 破損 [磐越西線下り会津只見線] 全線不通 [材木町] 51F 倉庫瓦落下重傷 1月	会津若松市
摩耶郡	猪苗代町		【17朝7】土蔵半壊 3 壁落 20 商店ガラ ス破損 10 水道破裂 20 【17夕3】粟島で消息不明釣人 16 人無 事	猪苗代町
	北塩原村	【17朝7】[裏磐梯櫛ヶ嶺] 崩壊 [裏磐 梯小中学校] 授業打切 [毘沙門沼] パン ガロー水没	【16夕1】[裏磐梯] 砂煙 [小中校] 避 難 【17朝7】[裏磐梯小中学校] 下校	北塩原村
	喜多方市	【17朝2】[喜多方女子高] 防火壁亀裂 【17朝7】[慶徳町豊岡] 住家全壊 [松 山町] 住宅半壊 [新仲町] ビル防火壁亀 裂 [県摩耶事務所] 壁崩れ [前田酒] 煙 突ヒビ [寺町 栄町 南町] 酒蔵煙突倒潰 酒蔵タンク溢れ 10 石 [慶徳中学] 14M 瓦落下ケガ 2 週	【18朝7】[岩月町無行 慶徳地区 真木 松山 八方 関柴下藤 貯水池] 亀裂 漏水 のおそれ	喜多方市
	塩川町	【17朝7】[大木田] 住家全壊 2，土蔵 全壊 2 半壊 1 [大沢] 全壊 4 [赤崎] 土 蔵半壊 1 [堂島大木] 73M タンス倒ケガ 2 週 [姥堂利根川] 61F 瓦落ケガ 2 週		
	西会津町	【17朝2】[西会津高] 薬品破損 防火壁 体育館屋根亀裂 廊下教室壁落 [奥川中] 外壁崩 [新郷小] 外壁崩 校庭亀裂 [西 会津中] 校庭亀裂	【18夕7】[野沢] 大山祇神社参拝団体 客 1050 人列車不通で野沢駅にとまり 17 日帰郷	西会津町

河沼郡	河東村	【17朝7】〔第三小学校〕体操場映画鑑賞中蛍光灯落下児童2ケガ	【16夕1】〔第三小〕講堂映画鑑賞中蛍光灯落下11F2名ケガ1週	会津若松市
	湯川村	【17朝2】〔勝常小〕防火壁傾斜	【17朝7】〔熊目村中〕住家倒壊〔浜岡〕住家倒壊	湯川村
	会津坂下町	【16夕1】各地で崖崩 【17朝2】〔会津農林高〕鴨居外 家畜舎傾 【17朝7】〔市中〕母屋全壊, 71Fブロック塀下敷重傷, 1F頭にけが〔牛山中〕58F 灯籠笠石落下腰骨折	【17朝7】〔新富町〕土蔵倒壊〔市中新富町〕土蔵倒壊〔市中二番〕土蔵 木造家屋倒潰〔駅前農業倉庫〕土蔵壁落〔柳町〕坂下農協土蔵壁落〔本町〕土蔵壁落〔市中二番〕71Fブロック塀重傷2月〔牛河牛沢〕59F 灯籠笠石下敷骨折重傷3月 【17夕3】被害数更新: 負傷4 全壊家屋5 半壊5 非住家全壊2 半壊3, 小中学校公民館建物被害21 〔青木〕55F 孫, 地震で飛出しバイクと衝突軽傷〔中沢地区〕軽四輪キレツで事故 打撲傷15日	会津坂下町
柳津町	【17朝7】〔新富町〕土蔵倒壊3〔国道49〕地盤沈下	【7朝7】〔藤字長窪〕住家半壊	柳津町	
大沼郡	会津高田町		【18朝7】家屋壁落下12 その他6, 土蔵壁落90 亀裂25 その他8	会津美里町
	本郷町	【17朝7】土蔵1棟倒壊, ケガなし	【16夕1】土蔵倒壊 【18朝7】二階建土蔵倒潰	
	新鶴村		【18朝7】住家64 土蔵77 その他11被害	
	三島町	【17朝7】宮下一西方間鉄橋桁ねじれ	【17朝7】川井上原: 崖崩住家危険避難	三島町
	金山町	【17朝2】〔横田中〕講堂傾斜〔川口高〕地割 煙突折損 ガラス 【17朝7】〔横田地区〕灌漑水道破裂〔水沼地区〕道路亀裂		金山町
磐城郡	平市	【17朝7】〔大通〕道路地割れ 病院煉瓦塀崩 ショーウィンドー破損		いわき市

## 5. 県都, 地方中心都市での地震時の様子

新聞記事を要約して以下に示す。括弧内は〔見出〕, 『引用部分』, 《筆者の注》である。

福島市および近郊: 県都福島市の地震時の様子を報じた記事は多い。福島民報の記事では, 地震発生日16日の夕刊面に〔電車もストップ 路上に飛び出す“青い顔”〕と題し福島の様子を『ユラユラとくると市内の目抜き通りは強い地震に驚いて路上に飛出す人たちや買い物客などが青い顔してオロオロ・運行中の自動車や電車《福島交通線》はストップして地震のやむのを待ち電車の乗客は窓から顔を出して電柱や広告塔の揺れるのを見上げ不安な表情だった。各地タクシー会社は家屋が倒れても大丈夫のように一斉に自動車を路上に出したので, 道路はまるで車の見本市』と報じ, さらにセトモノ店の被害, 昼食中の客の様子, 飲食店のボヤ, 高圧電線の切断等を報じている。

福島民友新聞の16日夕刊1面には同じく,〔飛び出す市民 福島 おおゆれにみんな青い顔〕と題し『ゴーッという音とともにほんの一瞬, 物すごい雨が降ったと思ったら地震が大ゆれにゆれだした』『福島市では県庁でさえビリビリとふるえたほどで, 県庁マンたちはわれさきにと飛出し, 電車通りはデパート, 商店, 銀行, 証券会社などから逃げだした人でうずまった』『下水溝の水はゴボン, ゴボンと音を立て, 波を打って路上にあふれ出し, 停車していた乗用車はまるでゆりカゴのようにゆれ出した』『県立高校会館前の電線は大ゆれのためにゆれだしてせん光を放ってスパーク。みんな真っ青な顔で人と人が手を握り合いながら市庁舎を見守るばかり』『同市花園町の県藪検定所では30年前につくった長さ24メートル, 太さ60センチのエントツが地震のため地上4メートルのところからポツンと折れた。幸い空地に落ちたためケガ人はなかった』『磐梯吾妻スカイラインで

は霜降り付近3ヵ所に落石があったがケガ人はないもよう。この落石で高湯ゲートは閉鎖した。森合の福島盲ろう学校ではちょうど授業中だったが、あまりの激震から大あわて、非常タイコを鳴らして生徒を校庭に避難させた』『同市の清明幼稚園でも、ちょうへや会《町部屋会：方言？》の最中だったが、事故を未然に防ごうとプールわきに避難。ところが大きな揺れからプールの水があふれ出し、園児たちはおろおろしていた』と報じている。福島民友新聞にはこれ以降、福島市内の様子を伝える記事は表れない。

翌17日福島民報朝刊2面には、市内の学校の被害の詳細、同7面には市役所での避難の様子が、コラム欄に掲載されている。『市役所ではちょうど改装中とあって倒壊を心配した職員たちが全員屋外に避難。高いハイヒールを履いていた女子職員は階段につまづいて見事にステーン。全治5日間の怪我をしたほか足を踏まれたり、押されたりで軽傷3人がでるといふ大さわぎ』と報じている。福島市の北郊の伊達町、桑折町の市街地の被害の様子が17日朝刊7面に掲載されている。

図1にこれらの記事から場所の特定できる記事を地図上に示した。背景地図は1960年(福島)発行20万分の1の地勢図を用いた。

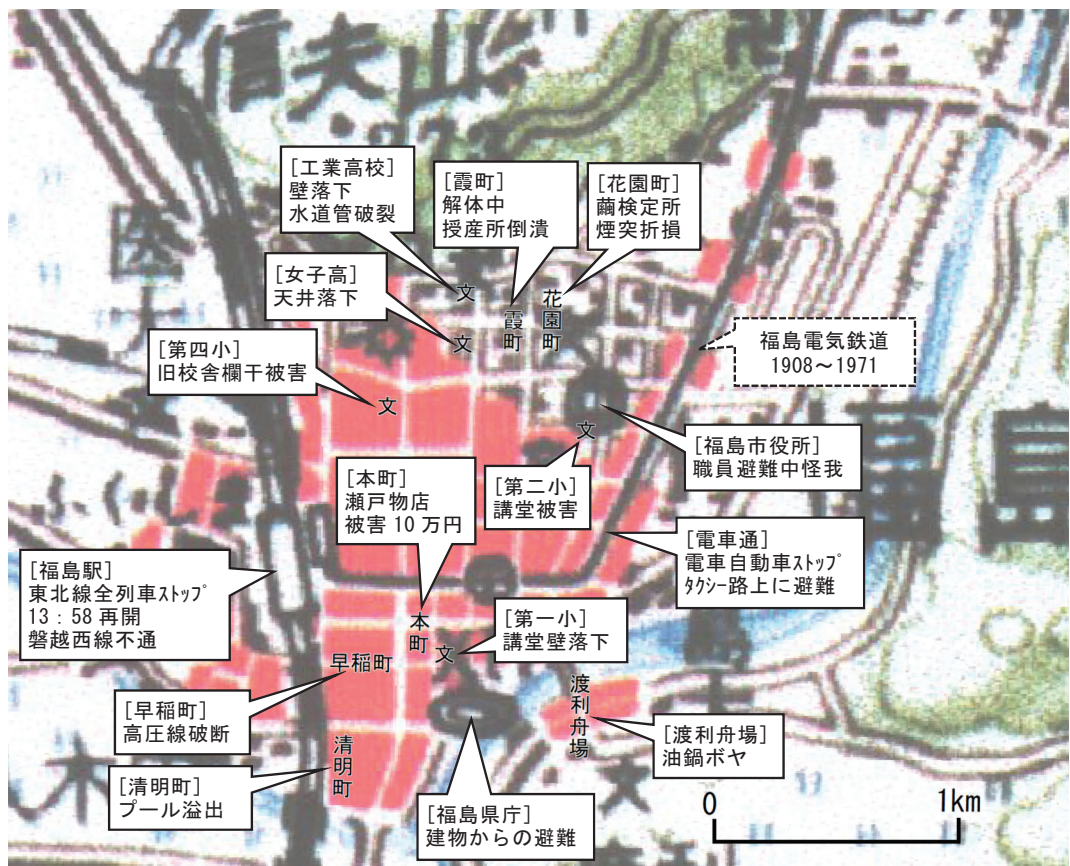


図1 福島市中心部の被害記事(1960年発行1/20万地勢図に地名・施設名と吹出を加筆)

**郡山市**：郡山市の様子は福島民報の当日 16 日夕刊 1 面に掲載されている。市内の官公庁、病院の建物から慌てて飛び出す様子が報じられている。映画館では先を争い外へ避難の様子、ある映画館ではたまたま関東地震の映画を上演していたことを報じている。

**平市**：浜通りで市内の様子を報じているのは平市のみで、福島民報の 17 日朝刊 3 面で大通りの地割れ、病院の煉瓦塀の崩壊、商店街の被害を報じている。

## 6. 国鉄の被害と復旧に関する報道

ライフラインの報道の中でも鉄道の被害とその復旧に関する報道は多く、駅での混雑の様子などが併せ報じられている。福島県内の地震発生当日 18 時現在の不通箇所は、磐越西線野沢－新津間、会津線柳津－郷戸および川ロー只見間で、磐越西線は急行は会津若松、普通は野沢止り、会津線は柳津止まりであった。東北本線、常磐線、磐越東線は 1 時間ほどの遅れで当日 15 時には平常ダイヤに戻っている。磐越西線、会津線は翌 17 日夜までに応急復旧している。

道路、電気、電信・電話などのライフラインの被害及び復旧状況は逐次報道されている。件数も多いが断片的である。被害・復旧の詳細は報告書、例えば土木学会の報告書<sup>7)</sup>に詳しい。

## 7. 団体旅行の消息に関する話題

新聞記事の中には地震に関連した話題が多く掲載されている。団体旅行の消息に関する 3 つの話題について紹介する。また、これらの話題については前述の体験談の中で話題にされているものもあるので併せ記す。

**新潟への修学旅行生の安否**：南会津郡舘岩村舘岩小学校と上郷小学校生徒約 100 人がこの日午後零時 57 分新潟着列車で修学旅行に行っており、安否が気づかわれている。県警本部では新潟県警を通じて調べている【民友 16 夕】。翌日の新聞では、舘岩小と上郷小の児童約 100 人は 16 日午後零時 57 分新潟到着で修学旅行に行っており学校関係者や家族は安否を心配していたが、同日夕、一行全員は無事隣の亀田町に宿泊していることがわかった【民報 17 朝】と報じている。

地震の発生は、13 時 01 分であるので新潟駅に到着直後であるが、亀田の宿への移動等についての記載はない。

**大山祇神社参詣団体**：〔野沢駅で立往生 新潟からの参拝客千人〕との見出しで『16 日新潟県から西会津町野沢の大山祇神社にきた団体客 1050 人は、新潟地震により磐越西線が不通となりかえることができず、同夜は野沢駅構内にとまり国鉄と同町婦人会の炊き出しを受け、17 日帰郷した。この団体は新潟県巻市 300 人、三条市 750 人となっている』と報じている【民友 18 朝】。体験談集<sup>3)</sup>には、西会津町野沢在住者で民友新聞社の特通記者の手記がある。当日は私用で現地の上棟式の手伝いをしていたが、地震の発生により取材に入ったとしている。『野沢駅には普通列車 2 本が停車しており、臨時列車ともども運航停止となった。臨時列車の 750 人は車中宿泊になることを告げられ、刻々入ってくる新潟地震の情報に右往左往するばかりだった。(中略) 8 時前に、国鉄が駅前通りの旅館組合に依頼した炊き出しのおにぎりが差し出され参拝客は 30 度近い寝苦しい悪夢の夜を過ごした、車内の国鉄職員と町の観光協会の人達の奮闘ぶりをカメラに収め、(中略) 若松支社電送、原稿は専用電話で送ることになりバイクで飛ばした。臨時列車は翌日下りは復興の見込みなく、郡山－福島－米沢から坂町を通り新津を経て 2 日を要して

長岡駅に無事帰った』と詳述している。《写真記事は見当たらなかった》

大山祇《おおよまづみ》神社について、福島民報社の電子版<sup>8)</sup>に『毎年6月に催される春の例大祭には多くの新潟県民が訪れる。神社によると、鉄道開通前の明治初頭、神主が馬に乗って県境を越え、神徳を広めたことが参拝者を増やすきっかけとなった。昭和40年代ごろをピークに、磐越西線は参拝のための重要な足となった』としている。

**粟島への釣り人：**猪苗代町の釣り天狗たち16人が震源地の新潟沖「粟島」で消息を絶ち心配されたが、17日朝「全員無事」の連絡があった【民友17夕】。体験談集<sup>3)</sup>には『そのころ、義父は釣り仲間4・5人で粟島に釣りに出かけていた。しばらくして新潟地震のことがテレビで放映されたが、猪苗代町にある義父の家で不安な一夜を過ごした。(中略)国鉄の電話で全員無事の知らせが入り留守番家族全員が安堵した。3日後、バスや列車で乗継して、米沢まわりのスカイバレーラインの山越えで帰れた』と北塩原村在住の手記が載せられている。

## 8. まとめ

1964年新潟地震の福島県の被害について、地元新聞の福島民報・福島民友新聞の記事を読み直し、当時の市町村別に被害および地震の影響について一覧表を作成した。県都である福島市およびその周辺では軽微な建物被害や煙突の折損などが報じられると共に、昼時の地震で市中での驚愕、建物等からの避難の様子が報じられていることを紹介した。また、旅行団体の消息についての記事を体験談集の手記を交え紹介した。

規模が大きな地震の被災地周辺部の被害と影響については、貴重な履歴にも拘わらず余り議論されていない場合が多い。今後とも同様な地震災害の例についても取り上げていきたい。

## 文献

- 1) 水田敏彦・鏡味洋史：1864年新潟地震による秋田県の被害に関する文献調査，日本建築学会技術報告集，26-63，814-1396，2020.
- 2) 水田敏彦・鏡味洋史：1964年新潟地震による新潟県以外の被害に関する広域的考察，日本建築学会技術報告集，28-69，1072-1077，2022.
- 3) 水田敏彦：1964年新潟地震の福島県会津地方における被害に関する文献調査，日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿），709-710，2023.
- 4) 佐藤一男：激震 会津を襲った新潟地震：80人の証言，歴史春秋出版，228pp，1995.
- 5) 鏡味洋史・水田敏彦：地震体験記から読み解く，福島県会津での1964年新潟地震，歴史地震，40，186，2025.
- 6) 佐藤民實：福島県新聞史，地方別日本新聞史，59-68，1956.
- 7) 土木学会新潟震災調査委員会：昭和39年新潟地震震害調査報告，904pp，1965.
- 8) 福島民報社：【鉄道と生きる（1）】<https://www.minpo.jp/news/moredetail/20221210103129>（閲覧2026.1.1）